

2018年度通期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

- ✓ 日時 :
2019年5月13日（月）17時00分～18時00分
- ✓ 当社出席者 :
代表取締役 佐藤、常務取締役 竹内、取締役 古川

【全体】

Q) 設備投資額の見通しについて。生産性改善に向けた投資は継続するのか。

A) 2019年度は前年比+8億円の245億円を見込んでいる。時計事業をはじめ、工作機械事業、オプトデバイス事業の合理化、自動化投資を加速していく。また、時計事業においてはデジタルマーケティング関連の投資も実施していく。

Q) 現在の在庫水準について。

A) 中国時計製造工場の閉鎖に伴い、完成品の作り込み等を実施したことによる在庫の増加があったが、今後は減少傾向。また、北米市場の売上増に向けた在庫積み増しも含んでいる。ムーブメントについては期首並みに戻っている。

【時計事業】

Q) 時計事業の第4四半期実績について。

A) 第3四半期好調だった北米市場が第4四半期は若干落ち着いた展開となり、想定を下回った。しかし、ディズニー関連の出荷が好調に推移し現地通貨ベースでは前年を上回った。国内市場も第4四半期は横ばいとなったものの、堅調を維持した。一方、欧州市場は苦戦した。

Q) 時計事業の営業利益が大きく落ち込んだ要因は。

A) ムーブメントの減産及び売上減が最も大きな要因だった。完成品は中国工場の閉鎖に伴うコスト増もあったが、下期は巻き返しており、売上・営業利益共に前年を上回った。

【工作機械事業】

Q) 工作機械事業の受注トレンドについて。受注のボトムアウト時期はいつ頃と見ているか。

A) 受注は年末頃からピークアウト感が出てきた。2019年度の大幅な下落は想定していないものの、明確な反転も難しいと見ている。本格的な回復は2020年度以降になる想定。

【デバイス事業】

Q) デバイス事業の2018年度営業利益が落ち込んだ要因は。

A) 特に第4四半期はオプトデバイス事業の稼ぎ頭である一般LEDも減収となる等、利益が上がりなかった。また、自動車部品についても中国向けを中心に第4四半期に入り低迷した。また、バックライトも売上減により減益となった。

以上